

2023

1・23

月4回
月曜日発行

第1278号

週刊ビル経営

発行所 (株)ビル経営研究所
〒104-0061
東京都中央区銀座7-17-12 2F
TEL 03(3543)7421
FAX 03(3543)5839
発行人 垂澤清三
年間購読料 30,000円(税込)
KAMEOKA NEWS AGENCY CORPS
亀岡大郎取材班グループ

ソーコに学ぶ ビル経営



イーソーコ総合研究所
代表取締役 出村 亜希子
奈良女子大学大学院修了後CM
会社を経て現職。一級建築士、
宅建士。「倉庫ドクター」とし
て建築面からオーナー支援に取
り組む。

「渋谷」なっているもの。これ
駅特有の成熟社会特有のもの
難しさといい、これらに
してあつたよ。そして、これらに
共通するのが「複雑な
ものをシンプルに分か
りやすく」というテー
マです。
現在、当社グループ
が運営するHPでもリ
各事業者がニューアルが進んでい
がそれぞれがニューアルが進んでい
れ、開設計画を来広げて
や事情のきた複数のサイトを整
もと、増理し直し、シンプルに
築、改築分りやすくすること
でユーザビリティの
向上を図る目的があり
ます。「渋谷」駅と共
通するものを感じまし
た。
難しいのは、現在稼
働しているものを機能
させながらの再構築で
あること。マスタープ
ランには時間軸の観点
も必要です。全体の合
意形成や調整など、一
から作るのとは異なる
高度なプロジェクトマ
ネジメント能力が求め
られます。
それが街であれ、建
物であれ、システムで
あれ、使われ続けてい
るための施策が過去か
らの架け橋となり、未
来の架け橋となり、未
来へのバトンとなりま
す。それが何であれ、
再構築して生まれ変わ
らせることは「リノーベ
ーション」に変わりあ
りません。過去と未来
をつなぐ「今」の時代
を担うものとしての自
覚を持ち、未来への豊
かな想像力を持ってバ
トンをつないでいく姿
勢を大切にしていきた
い、改めて思いまし
た。

第56回「成熟社会と再構築(リノベーション)」

日本を代表するターミナル「渋谷」駅。10時々のベストプランで乗降客数は300万あったのでしよう。しかし、それが長い年月日、この「渋谷」駅とともに蓄積された結果、複雑怪奇な構造となり、利用者にとつて分かりにくい駅となりました。
「渋谷」駅では2015年から駅の安全性・利便性を高めるための改良工事が行われていました。また駅周辺も開発が相次いでおり、駅も街も訪れるたびに様相を変えています。まさに、都市の大改造「リノベーション」といえるでしょう。長年のかかる取り組みで、その情熱や根気たるや頭が下がります。社会が成熟した現代においては、同様の状況はさまざまに見つけることができます。都市、建物、インフラ、またそれを動かすシステムなど、どれも複雑に進化してきた。改めて思いま